

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702677		
法人名	有限会社 福の里		
事業所名	福の里グループホーム結		
所在地	福岡県北九州市八幡西区楠橋上方二丁目18-37		
自己評価作成日	平成23年5月11日	ユニット名	結 2

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年5月30日	評価結果確定日	平成23年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、スタッフと一緒に外食をしたり、ぶどう狩りやみかん狩りなどの行事を取り入れ、外出等で季節を感じていただけるような取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、家庭的な雰囲気を大切にするように努めている。生きがいや楽しみ、達成感のある生活が出来るように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組会の花見や祭り等に参加している。また、幼稚園児が定期的に来られ、歌や踊りを披露していただいている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の幼稚園児来訪時や敬老会等の行事に参加して頂く事で交流を持ちながら認知症への理解を持って頂く。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期開催し、行事予定やホームの状況、消防訓練等についての報告や意見交換がなされている。呼びかけは行っているが、現状としては入居者家族や地域代表の定期的な出席が課題となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会の定期の会合を通じて、行政職員との意見交換が行われている。今後はさらに連携を深め、サービスの向上に活かしていきたいと考えている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。また、会議等で職員全員が理解出来るように取り組んでいる。日中は鍵をかけず開けていてオープンなホーム作りが出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を回覧し、今までの対応を考えるよう努めている。研修計画に基づき資料を作成し、会議にて介護職員の義務や知識の向上に取り組んでいる。	

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加し、必要な場合に活用できるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には文書示し、その上で十分な説明を行っている。また、家族会を通しての説明も行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情については利用者や家族と話し合い、解決に努めている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に一度会議を行い、職員からの意見を聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員と話をする時間を作り、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の際には、面接時にチームケア、協調性について話をしている。性別や年齢などで採用の判断基準にはなっていない。職員の能力が十分に発揮できるよう、また、意欲を大切に職場環境作りに努めている。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム協議会の研修の参加や事業所内での勉強会等で理解の浸透に努めている。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、講習会等に参加し、勉強する機会を増やしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。同業者との情報交換、技術の講習、勉強会の貴下を持ち、サービス向上に向けたグループホーム間の連携や相談できる関係作りを目指す取り組みがある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、不穏を訴えて来られた際は職員は作業を一端中止して、訴えを傾聴し、少しでも不安を取り除けるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に来られた際、利用者、家族の不安、希望を伺い対応できるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望であっても、利用者の体調、状況に合わせ、他施設の紹介やデイサービスの利用等をすすめることもある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事や昔行っていた場所など、思い出話を聞かせてもらおう事もあり、共感できる場面、関係を大切にしている。また、一人一人の希望や能力に応じた役割を担ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での利用者の状況が分かるよう、毎月「福の里便り」と題して、生活状況の報告を手紙にし送ることで、安心の声が聞けたり協力が得られている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状、暑中見舞い等、利用者の知人や家族に出している。返事が届き手紙を出したり、また、面会に来られる方もおられ、利用者様も喜ばれている。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者の趣味や得意・不得意を知ること で、利用者同士が一緒に行える事、会話など工 夫している。また、スタッフが間に入り、利用 者同士で会話ができるように声掛けを行っ ている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され他施設へ行かれた利用者、入院の 為退居された方への面会を定期的に行って いる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人の力に合わせた無理の無い暮らしを会 議などで話し合い、希望・意向を考えながら 行っている。また、定期的なケアプランの見 直しで毎日の生活に張りを出す工夫を行っ ている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ADL主体ではなく、これまでの利用記録や 入居者本人や家族とコミュニケーションを図 りながら生活歴等を聞き出し、職員全員が 全利用者を把握出来るよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個別処遇マニュアルやADL等記入した情報 書類が事務所にあり、スタッフがいつでも見 られる状況であり、全職員が利用者の生活 状況を把握できるようにしている。その時の 状態に合わせ支援出来るよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	課題が上がったり、定期的なケアプランの 見直しの時は担当者会議を開き、全職員が 意見を出し合い、家族に同意求めている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の担当者(早出・日勤・遅出・夜勤)が それぞれ記録を行っている。排泄時間、回 数、食事摂取量、水分摂取量を記録してい る。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームに入所しなくても、利用者の状況に応じ、デイサービスやショートステイ等の利用サービスがある事を紹介している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議や行事等に参加し、顔見知りになる事からコミュニケーションをとり、災害時などの協力を得られる様に努めている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望するかかりつけ医を大切にしながら適切な医療が継続的に受けられるよう支援している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師との情報交換で日常の健康管理に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、また病院との情報交換を行い、一日でも早く退院できる方向へ相談を行っている。退院後のケアも会議などで話し合いを行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「医療連携体制に関する覚書及び同意書」にて重度化した際や終末期のあり方について家族と話し合い医療との連携や方針を明らかにしている。本人や家族の思いを大切にしたいと考える。また、結会議によって情報を共有し、よりよい支援が出来るように努めている。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防計画や事故発生時の対応マニュアル等を作成し、緊急に備えている。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年二回消防訓練が行われている。地域消防団とも連携をとり、災害時に備えている。居室入り口には救護マークが身体状況により色分け表示されている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや会話など研修や話し合いなど行われており、人生の先輩に対し、尊敬の意をもって接するよう心掛けている。個人情報についても法令遵守に努めている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人認知度が違うため、その方に合った対応を心掛けている。どんなささいな事でも自己決定出来るように工夫している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを乱さないように支援している。それぞれの入居者の思いに沿った過ごし方(散歩など)に柔軟に対応し、ゆとりを持って一緒に過ごせるに努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が定期的に散髪を行っているが、本人様より希望があればすぐに対応出来るよう心掛けている。毎日の身だしなみは自立されている方はもちろん、介助が必要な方にも支援出来ている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で職員と一緒に食事の片づけを行っている。入居者の好みや反映された献立が作られ、行事によって献立にて工夫がみられる。外食やお菓子作りなど、食を楽しむ支援が行われている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の好みや栄養バランス調理方法など工夫している。食事、水分量を記録し健康管理に努めている。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと一日3回のうがいを実施している。歯科医による講義を受講したり、歯科受診していただいている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄のパターンを把握し、失禁を防ぐ為の定期的な声掛けと食事前には自然とトイレへ行けるよう誘導している。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便日を記録している。マッサージを行ったり、歩いて頂いたりしている。また、医師に相談し、必要な方には薬を処方して頂き、服用して頂いて便秘の対応に努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	13時から16時が入浴時間となっている。一人一人の対応に応じて実施している。週3回は入浴出来るように支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めていないが、生活リズムを壊さない程度に休んで頂いている。また、入浴で体力を消耗する方など、一人一人の体調、体力に応じて日中も臥床時間を取っていただいている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬マニュアルを見て利用者一人一人の服薬管理を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や入居者の誕生日会を企画し実施に努めている。また、コミュニケーションを取り聞き出した生活歴や趣味から、毎日の生活の中で役割を持ってもらえる様支援している。		

福岡県 福の里 グループホーム 結

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者の希望を聞き、出来る限り支援している。また、天気の良い日は状態を見ながら施設周辺を散歩するなどの対応が出来るよう努めている。</p>		
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、入居者はお金は所持していない。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙や年賀状等出していただけるよう支援している。返事が届いたり、手紙が届いたと相手からお礼の電話が入ったりし、大変喜ばれている。希望があれば本人自ら電話出来る様対応している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、和室には季節感のあるポスターや写真カレンダー、廊下には行事の写真やスタッフと利用者が共同で製作した貼り絵を飾るなどしている。</p>		
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室にはゆったりと寛げるソファ、季節感を出す飾りなどで居心地の良いスペースの工夫に取り組んでいる。また、和室や食堂で思い思い過ごしていただける様に心掛けている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、家族の希望により、馴染みのものが持ち込まれており、医湖語地の良さに配慮されている。</p>		
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーにて段差をなくしたり手すりを設置して安全に過ごしていただける様にしている。また、利用者に合わせてソファやイスを設置するなどして工夫している。</p>		